

第5回

丹波アートコンペティション

TAMBA
ART
Competition

2024

2

火

20



日

25

入場無料

10:00-19:00

2/25 15:30閉場

同時開催

丹波市立植野記念美術館
第4回展 新人賞受賞者展

入場無料

10:00-17:00

2/25 16:00閉場

丹波アートコンペティション展

第4回展

新人賞受賞者展

2024.2.20(火) - 2.25(日)

会場：丹波市立植野記念美術館2階研修室

丹波市立植野記念美術館

入館：無料

〒669-3603 兵庫県丹波市氷上町西中 615-4 TEL:0795-82-5945

古川 樹

《作家略歴》

1990年 大阪府生まれ
2012年 京都精華大学芸術学部素材表現学科テキスタイルコース卒業
2014年 京都精華大学大学院 芸術研究科博士前期課程染織領域 修了

【主な受賞歴・個展歴】

2012年 番画廊
「第1回あさごアートコンペティション」スポンサー賞(但陽信用金庫賞)
2013年 番画廊
2014年 「気になるあの娘」 福住画廊
2015年 アトリエ個展シリーズ VOL.3「古川樹」展 西脇市岡之山美術館
「大人になりなさい。」 福住画廊
2017年 「ここからはじめよう」 福住画廊
2018年 「FUN×4」 福住画廊
「第7回あさごアートコンペティション」優秀賞
2021年 「オー！マイキャット」 福住画廊
2022年 「第3回丹波アートコンペティション」奨励賞
「第33回美浜美術展」福井新聞社賞
2023年 「第4回丹波アートコンペティション」観光協会長賞・新人賞

【アーティストステイメント】

私は自己を客観視する装置として、絵を染めている。
自己というものは、外見も内面も日々変化し、また一日の中でも揺らぎがあるものだとは考えている。
そして、私はその時々での揺らぎの幅が広く、自己を認識しづらいとずっと感じていた。
そんな日々の生活から出てきた欲や願望、疑問を作品にしている。
友禅染という沢山の工程がある技法を使うことで、作品は私から切り離され、より客観的に見ることができる。
私は作品を作ることで後々自分を知る。

《新人賞受賞作品への作者のことば》

頂きもののフード付きのマフラー。
かぶるとオシャレだけど、フードの使いどころがわからないまま10年ほどが経ちました。



フード付きのマフラー

絹布・酸性染料・顔料
縦 145.5 cm × 横 97.0 cm

河村 恵

《作家略歴》

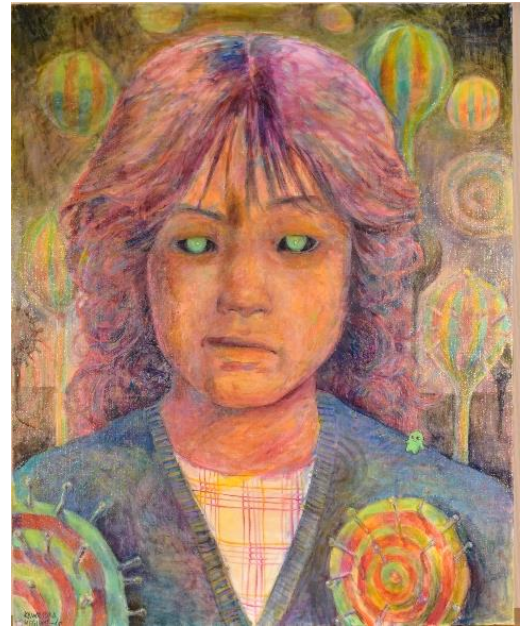
京都府綾部市生まれ
京都市立芸術大学 在学中

【主な受賞歴】

2023年「第4回丹波アートコンペティション」奨励賞・新人賞

「何もない、もしくは何も見えないところを見ようとする性質」をテーマに絵を描いています。

誰もいないのに誰かいると感じたり、混沌の中にもコンテキストを探したりする、そのような性質です。そこにあるものより見えていないものをよく見ようとします。マスクのキャラクターはその性質の象徴です。マスクは内側には何もない被り物であり、主に顔を隠すために使用されます。そしてその用途通り顔を隠すために使われているとき私たちはすでにマスク自体を見ていません。何もなかったはずの、その内側に隠されたものを見ようとします。マスクというモチーフ自体がこの性質を表す存在だと考えました。今後このシリーズで制作していこうと思っています



自我の証明

油彩

縦 200.0 cm × 横 80.0 cm

《新人賞受賞作品への作者のことば》

2枚1組で自画像を制作しました。自分の中にある矛盾した思考をコンセプトに画面を構成しています。現代の、情報が記号化されて均されていく風潮に対して、抵抗したい自分とそれを受け入れ枠の中で安心している自分を描きました。これまでも自画像は何枚か描いたことがありましたが、過去に制作した自画像とは違って、自分の思考のイメージと自分の肖像を融合させた表現に挑戦しました。自分自身について知らない人にも楽しんで貰えるような作品を目指しました。

古寺 実鈴

【主な受賞歴】

2022年「第3回丹波アートコンペティション」入選

2023年「第4回丹波アートコンペティション」奨励賞・新人賞

本展出品作品の《色づける時》は高校の卒業制作として描き、初めて制作したサイズの絵だったため、反省も多いですがアートコンペティションで入選をいただき、思い入れのある作品です。

《花あふれる》は動物と花をモチーフにカラフルな作品になるよう制作しました。

《海町》は海の中にある町を描きました。

《店番》は店番をする女の子と動物たちをモチーフに描きました。

私の絵を見てくださった方に、暖かく穏やかな気持ちになってもらえるような絵を描きたいと思っています。

技術的に未熟な部分が多いので、これからはデッサンやパース等の技術を磨き良い作品を制作していきたいです。



深海ファンタジー

水彩

縦 187.0 cm × 横 96.0 cm

《新人賞受賞作品への作者のことば》

深海にある世界に落ちてしまったシロクマを描きました。

深海の町には星のなる木や巨大なタコ、小さな人間や猫などを描写し、ファンタジーの不思議な世界観を描きたいと思い制作しました。とても小さなカニやメンダコ等の生物も散りばめているので、ゆっくり見ていただくと嬉しいです。

180.0×90.0 cmの大きな絵をパネルから自分で製作したのは初めてで、わからないことばかりで悪戦苦闘しました。家族の助けなどもあり、無事に完成させることができ新人賞という素敵な賞をいただけてとても嬉しいです。

笹本 しずか

《作家略歴》

1991年 兵庫県生まれ

2016年 兵庫教育大学大学院

文化表現系教育コース芸術系教育分野 修了

【主な受賞歴・個展歴】

2013年 「第63回西宮市展 洋画部門」

若手奨励賞・西宮芸術文化協会賞

2014年 「第41回小野市美術展 洋画部門」奨励賞

2014年 「第64回西宮市展 洋画部門」

若手奨励賞・西宮市展賞

2015年 「第53回県展（兵庫）絵画部門」

公益財団法人伊藤文化財団賞

2020年 「丹波篠山・まちなみアートフェスティバル 2020」出展

2021年 4月13日～24日

アトリエ個展シリーズ VOL.1

「笹本しずか - 記憶色 -」展

西脇市岡之山美術館

2021年 12月21日～2022年 1月16日

アトリエ個展シリーズ VOL.1

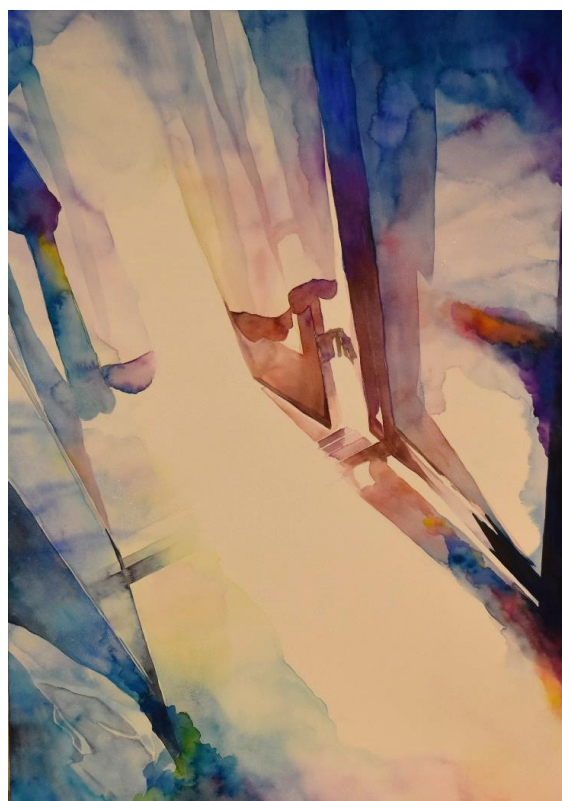
「笹本しずか - Still Life -」展

西脇市岡之山美術館

2022年 「第3回 丹波アートコンペティション」新人賞

2022年 「丹波篠山・まちなみアートフェスティバル 2022」出展

2023年 「第4回 丹波アートコンペティション」奨励賞・新人賞



opening

水彩・鉛筆・紙

縦 103.0 cm × 横 73.0 cm

《新人賞受賞作品への作者のことば》

子どもの頃から、窓やカーテンの隙間、扉の開いたところを通り、フローリングや壁を這う日差しを眺めるのが好きでした。それによってできた影にも、光の粒がたくさん留まっている気がしていました。今でも、日差しを眺めているとあたたかいような懐かしいような切ないような、不思議な気持ちになります。関心はいつも、部屋の中にあるものや窓から見えるものといった手の届く範囲の景色ばかりでした。オープニングは、1日の始まり。

使用した画材はホルペイン透明水彩、シュミンケホラダム透明水彩、鉛筆、ミューズホワイトワトソン水彩紙。

和田 はるな

《作家略歴》

2001年 広島県生まれ

2023年 武蔵野美術大学造形学部日本画学科修了

2023年 長野県安曇野市へ移住

現在、会社に勤める傍ら個展などの創作活動を行う。

【主な受賞歴・個展歴】

2023年 「越後湯沢全国童画コンクール」最優秀賞 受賞

2023年10月 「陽だまりのなかへ」個展 ひつじや

2023年 「第4回丹波アートコンペティション」奨励賞・新人賞

コロナ禍で外界へ行くことを制限され、家族や身近な人と日々を送る中、私は日常の小さな出来事に目を向け暮らし方に関心を持つようになった。安曇野で、自然とともに暮らす人々が収穫や手仕事、季節の行事などを行う姿に感動し、絵にしたいと思った。今作は移住して初めて制作したものだ。私の始点となるものであり、作品を通して少しでも春を感じていただけると嬉しい。

本展出品作品《春を待つ人》、《里山の春》、《お山の春》そして《そよ風の散歩》はいずれも2023年制作。安曇野に移り住み厳しい冬の寒さに耐え忍び過ごすうちに、春を待ち遠しく思うようになった。豊かで美しい春の自然と人々の暮らしを水彩画と陶器で表現した。

今後の目標として、自然とともに暮らす人々の物語を絵本にしたい。



朝の敵

刺繍・オーガンジー・毛糸・寒冷紗

縦 100.0cm × 横 133.0cm

《新人賞受賞作品への作者のことば》

2020年制作。コロナ禍で人と人との間に薄い皮膜があるように感じ、取って全体を布で覆い漠とした見せ方をしている。自分自身の日常をモチーフにしている。

大木 春菜

《作家略歴》

1994年 岡山県生まれ

2018年 愛知教育大学大学院 教育学研究科修士課程
芸術教育専攻美術科内容学領域 修了
(修士・教育学)

2019年 秋田公立美術大学ものづくりデザイン専攻助手

2019年 Corning Museum of Glass ワークショップ TA

【主な受賞歴】

2019年 「国際ガラス展・金沢2019」

審査員特別賞 藤田潤賞

2019年 Honorary Diplomas 2019 of the Jutta Cuny-Franz Foundation

2020年 「第8回現代ガラス展 in 山陽小野田」

土屋審査員賞

2022年 「枕崎国際芸術賞」優秀賞

2023年 「第4回丹波アートコンペティション」新人賞

【パブリックコレクション】

常陸国出雲大社コレクション

石川県能登島ガラス美術館

【アーティストステートメント】

ガラスの物質的特性を主題に、熱・重力といった自然の力に委ねる部分を設けて、溶けたガラスに表出するやわらかな動きや、光を透過する性質を探求する表現や造形活動を行っています。

《新人賞受賞作品への作者のことば》

今回新人賞に選出していただいた作品は、ホットワークという技法で造形しています。熱く揺らめくガラスの動きからは、時に意思や命のようなものを感じることがあります。素材の声を聴き、ガラスの生理に寄り添いながら形を共に探していく制作過程が、自身の表現にとって重要であると考えています。



R-XIV

ガラス

ホットワーク キルンワーク コールドワーク
縦 21.0 cm × 横 32.0 cm × 奥行 19.0cm

小林 美紅

《作家略歴》

1997年 兵庫県神戸市生まれ

図工講師、PenetrateSTUDIO アシスタントをしながら、兵庫教育大学大学院に在学中。

陶芸作品を中心に、ファブリックや様々な素材をつかった造形活動を行う。

【主な受賞歴・グループ展歴】

2023年 グループ展「ぼくらの森においでよ！」

グループ展「となりの畑 vol.2」

「2023 兵庫教育大学大学院美術展」

「MONSTER EXHIBITION 2023」

2人展「てとて」

「第17回加東市美術展」奨励賞

「第4回丹波アートコンペティション」奨励賞・新人賞



退屈

陶

縦 35.0 cm × 横 66.0 cm × 奥行 33.0cm

《新人賞受賞作品への作者のことば》

そよ風の吹く 日曜日
暇でひまで たまらない
さっき 小鳥が 教えてくれた
明日は きっと 曇り空

「退屈」は、オリジナルのクリーチャー「水ぼうそう少女」シリーズのひとつです。いたずらっ子の水ぼうそう少女。心地のいい風が吹く日は、いたずらする気にならなくて暇なのです。雲の上に寝転がって、次のいたずらでも考えているのでしょう。明日はあなたのところ現れるかも…悪い子ではないので、もし良ければ、いたずらに付き合っ
あげてください。